



三川内焼絵付け職人

ふくもと めぐみ
福本恵さん

もっと身近に
三川内焼に触れてほしい

四百年の歴史を誇る三川内焼は、佐世保市で唯一の国指定の伝統的工芸品です。現在、三川内焼にはその伝統的技術を引き継ぐ12人の伝統工芸士（ ）が活躍しています。
伝統工芸士 伝統工芸品を一定の年月作り続け、高度な伝統的技術を持つ人を対象に実施される試験（筆記と実技）に合格した人に与えられる称号

三川内焼の魅力
「美しい白磁と繊細優美な絵付けが三川内焼の魅力です」と話すのは伝統工芸士を目指し、自宅の窯元で絵付けの仕事をしている福本恵さん。福本さんは作品を作るほか、三川内焼伝統産業会館（三川内本町）や佐世保に寄港する客船内などで、観光客や子どもたちに絵付けを指導し、その魅力を伝えていきます。



三川内焼の絵付け体験に訪れた大久保小学校の児童に終始笑顔で指導する福本さん（三川内焼伝統産業会館）



大きい作品は、絵付けに5～7日間かかります

「絵付け指導の経験がまだ浅いので、毎回緊張します」と話す福本さんですが、社会科見学で三川内焼伝統産業会館を訪れた大久保小学校の児童に、終始笑顔で教えていたのが印象的でした。初めての絵付けを楽しんだ児童は、福本さんに「絵付けはどのように練習するのですか？」など、熱心に質問していました。
三川内焼というと、「唐子」のイメージが強いのですが、福本さんの得意な絵は山水画。高校生まで油絵を習っていたという福本さんですが、技術の向上のためにノートに鉛筆で何度もデッサンをするなど、絵付けの練習は今でも欠かさないとか。



伝統工芸士である母・豊子さんと一緒に作業する福本さん

三川内焼の伝統を伝えたい
窯元で生まれ育った福本さんは、あまりに身近で、三川内焼の良さに気付かない時期があったと言います。福本さんは高校卒業後、服飾関係のデザイナーを目指し、東京の専門学校に進学しました。その後、実家の強い希望で窯元の仕事を手伝えることになった福本さんですが、「もっと三川内焼が好きだったのでしようね。今はこの仕事が好きでやっています」と笑顔がこぼれます。
伝統工芸士である母・豊子さんも「物作りはすべて同じですよ」と心強い言葉で福本さんを支えています。「将来は、絵付けの技術を向上させて、三川内焼の伝統を後世に伝えられるよう、伝統工芸士になりたいです。三川内焼の伝統を引き継いでくれる若い人たちが増えるとうれしいですね。これからは、三川内焼をもっと広められるように取り組んでいきます」と語ってくれました。



◀右から阮さん・孫さん

ハウステンボス・国際営業部

阮 津 さん
孫 立紅 さん

美しい自然環境に囲まれた
ハウステンボスを訪れてほしい



阮さんは、中国から訪れる重要な客人などに対して、施設内の説明や案内をすることもあります

を目指しているところ。中国は現在、経済がどんどん発展していますが、その犠牲として環境が破壊されています」と、阮さんは自信と誇りを持ってハウステンボスを中国にアピールしています。
現在、訪日観光の中国人団体観光ビザ（査証）が解禁されているのは北京、上海、広東省の3地域に限られています。中国の大都市部からハウステンボスを訪れる観光客は皆さん、自然環境や建物の景観の美しさなどに感激して帰国するそうです。

佐世保は第二のふるさと
阮さんと孫さんは、以前、東京で生活したことがあります。二人にとって佐世保は「第二のふるさと」なのだそう。
「東京には自然が少なく、満員電車での通勤など疲れることが多かったです。また、近所の人と接する機会も少なく、住んでいたマンションでは、隣に住んでいる人すら知りま



二歳になる娘・晨瑶さんと一緒に。晨瑶さんは、保育園で覚えてくる佐世保弁を流ちょうに話すそうです

せんでした。しかし、佐世保は、周りの人がとても親切で、子どもを連れて散歩していると、あいさつなどよく声を掛けてくれます。とても住みやすく、子どもを育てるのにもいい環境ですね」と話すのは孫さん。
佐世保のことが大好きだという二人は、中でも西海パールシーリゾートを大変気に入っていて、娘の晨瑶さんを連れてよく出掛けるそうです。

ハウステンボスは、「エコロジー（自然の生態系の保護）とエコノミー（人間の経済活動）の共存」を理念とし、ごみや汚水の処理などにも積極的に先端技術を取り入れるなど環境未来都市を目指しています。

ハウステンボスの魅力を
中国にアピール

阮さんと孫さんのご夫妻です。二人は中国・山西省の出身で、孫さんは平成9年から、阮さんは平成11年からハウステンボスに勤務しています。阮さんは、中国市場におけるハウステンボスのアピールと観光客の誘致、孫さんは、主に営業事務や通訳・翻訳業務に従事しています。
「ハウステンボスの魅力は、きれいな海と緑豊かな山など美しい自然に囲まれた環境です。また、単なるテーマパークではなく、人と自然の共存を理念として一つのまちづくり

日本と中国の掛け橋に
近年、中国は経済発展に伴い所得も上がり、一般市民も海外旅行を楽しむ人が増えてきました。来年はビザが解禁される地域がさらに増える予定で、中国はこれからますます有望な観光市場です。「たくさんの中国人観光客がハウステンボスを、また佐世保市を訪れてくれるよう、その魅力を伝えていきたい。仕事を通じて両国の交流を深め、日本と中国の掛け橋になりたいです」と二人は語ってくれました。